



発行所
黒川まさる事務所
TEL045-781-9580 FAX045-786-4310



金沢文庫西口で元気に市政報告

愛する金沢再生プラン

・・・2007年の政治活動報告と2008年に向けた展望・・・

★行政サービスの充実に向けて
マニフェストで提案した、「小学校の空き教室を利用した行政サービスの拠点作り」は、小学校を地域の人がいつでも気軽に足を運べる拠点として開放していくこと、行政の証明書の発行サービスの幅広い展開の2つの側面から政策を提案しています。

昨年4月の当選以来、横浜市会議員として金沢区民を代表して横浜市政の場で働かせていただいております。地方政治家として一番大切なことは区民や市民のみなさんに選挙のときにお約束させていたいただいたことや、自分自身の政治信条を曲げることなく誠実に努力し続けることです。4月の選挙で区民のみなさんにお伝えした私の地域政策マニフェスト「愛する金沢再生プラン」の中で取り上げた4つの柱について、今回の「ともづな」号で、報告させていただきます。

行政視察では、福島・新潟・岡山の小中学校での地域社会との様々な連携を学びました。PTAのみなさんが本の朗読をしてくれたり、お年寄りが子供たちと一緒に授業を受けたり、地域の昔話を聞かせてくれたりといった取り組みは、横浜でもそれぞれの学校で今すぐにも自主的に取り組めることです。教育委員会には、各学校に対して引き締める部分と自主性に任せる部分をメリハリをつけて指導して欲しいと求めています。

行政サービスに関しては「証明書の自動交付機」に着目し、仙台や川崎の先進事例を見学しました。誰でも簡単にキャッシュカードのような手軽さで、印鑑証明や住民票が取り出せる機械が、区役所や地区センターや行政サービスコーナーにあれば、行政職員の手を煩わすことなく土日や深夜でも利用できるようになり、すでに300近い自治体で導入されています。



仙台市の証明書自動交付機

★区への権限委譲の取組
金沢区の個性を生かした発展のためには、区独自の予算や政策を区民のみなさんとともに話し合い、意見を吸い上げる仕組みを作るのが大切です。

高齢化社会への取組や子育て支援も市内の北部や都心部と南部とでは状況も異なりますし、対策

★議員改革のポイント
地方議員の仕事や立場、政務調査活動費のあり方などについては、「新人議員」だからこそという立場で、自民党の横浜市議員団の中で徹底的に議論しています。市民感覚とはかけ離れた議会の常識には素朴に疑問を投げかけ、おかしいと思うことは若手議員のネットワークも活用して改めていきます。

党内での議論や他党との折衝を経て、本年4月から政務調査活動費については、新しい運用システムがスタートします。

★今年のお金
今年金沢区は区制60周年を迎えるほか、5月末にはアフリカ開発会議の関連事業の一部が長浜ホールで行われる予定です。アフリカで最も有名な日本人と言われる野口英世博

にも微妙なきめ細かさが求められます。金沢八景や金沢文庫といった金沢の顔となる駅の周辺は、20万都市にふさわしい中心市街地に整備することが急務です。世界遺産登録を視野に入れた歴史・文化資産の保存や活用、潮風と緑といった自然環境の保護も金沢ならではの課題です。生涯教育・文化やスポーツ施設の活用、産学共同など二つの大学と市民生活との共存にも大きな可能性があります。そういった事柄をふまえて金沢区の将来像をデザインしていくことは、金沢区民でなければ出来ないのだという気持ちで議会や担当委員会や区作り推進会議などで訴えています。

★地域経済の発展のために
議員になる前から取り組んできた「地域貢献企業の認定制度」は、昨年スタートし初年度は70社を越える企業の応募がありました。今年には200社の目標達成だけでなく、入札制度に取り入れるなどインセンティブの充実を、担当の経済観光局が旗振り役となって部局を横断して取り組むよう前述の決算特別委員会で要望しました。

現在の大企業中心の好景気は市内の小々な規模の企業には全く実感がありません。景気回復の裾野を拡げるには、地方自治体が独自の企業育成策や、起業支援策を展開していかねればなりません。しかし横浜市が展開している様々な経済政策が本当に必要な企業にきちんと届けられているかは疑問です。市内の小々な規模の企業が地域社会に貢献し、自信と誇りを持って安心して働ける環境を整え、地域内での経済循環を図ることを併せて要望しました。

ともづな5号でお伝えした通り、今年5月末にアフリカ開発会議が横浜で開催されます。私は、当初からこのアフリカ開発会議の一部分を金沢で開催することを提案してきましたが、昨年9月には正式に「アフリカ開発会議開催推進本部」が発足し、野口英世アフリカ賞関連事業チームに金沢区の区政推進課が加わることになりました。チームのミッションは長浜野口記念公園を活用した関連事業の検討・実施等となっています。

政治や経済の会議で終わらせることなく、多くの区民のみなさんにも協力していただき、アフリカのことを市民が理解する大きなきっかけとなり、アフリカからの来訪者にも横浜を大好きになってもらいたい、いまからワクワクしています。



野口博士ゆかりの長浜ホール 野口英世記念館

2008年 横浜が、金沢が・・・

2008. 5. 28 (wed) - 30 (fri)

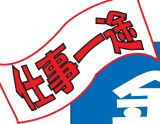
アフリカの年になる!

YOKOHAMA meets AFRICA

T I C A D I V i n Yokohama

金沢を動かす若い力を信じて

ライフレポート 黒川まさるの青年の集い



昨年(2019年)の12月13日に金沢文庫のふれあい会館で「第5回 黒川まさるの青年の集い」が開催されました。実行委員会のみなさんとともに、金沢区の若者達が抱える問題を、いろいろな形式で語り合おうと企画しました。

第一部では、西柴で「シヤロン」というケーキ店を経営する金子社長に一生続けられる仕事との出会いや、独立を目指して働く喜びについて語っていただきました。

第二部では、黒川勝をコーディネーター役として、平潟在住のエッセイストの北園修さんと、関東学院大学人間環境学部伊藤ゼミの岡智美さんパネリストとして、加わっていただき、これから働く二十代、働き盛りの四十代、頑張ってきた六十代、それぞれの立場から人生の多くを占める「仕事」に対する思いを語り合ってもらいました。自分の仕事を好きになることの大切さ、好きになる

ことに加えて飽きないこと、いろいろな人と積極的に話を交わすことからヒントが見つかる、金沢の人は金沢を大好きな人が多いなど、興味深い話をそれぞれのみなさんから聞かせてもらうことが出来ました。

約40名の若い来場者のみなさんとのやり取りでも、金沢区民の特徴として一番多く手が挙がったのが「金沢区民は地元志向が強い」という点でした。

学校での教育や、親が甘やかしすぎるなどといった問題点も指摘されましたが、若者の可能性を引き出してあげることが先輩の務めだという言葉はその通りだと思えます。私自身もいろいろな職業を経験し、若い世代に伝えていきたいこともいっぱいありますし、人生の先輩たちから教えてもらいたいこともたくさんあります。

これからも実行委員会のみなさんと、共に色々なテーマで金沢の青年たちと語り合っていきたい世代のために創っていきたいと思います。

平成19年度から20年度にかけて、金沢文庫の西口の出口から駅前ロータリーにかけての通路が整備されます。金沢区と道路局の連携事業として区民の意見を大きく取り入れた取り組みとして計画されたもので、川を部分的にふたがけをして、ゆとりと安らぎのある人にやさしい駅前空間となります。



このイメージバスは確定したものではありません。今後の実施設計で修正・変更される可能性があります。

金沢文庫駅の西口が整備されます。

いですが、放置自転車の問題は一向に改善されていません。せっかくお金をかけて整備しても区民のみなさんの協力がなければきれいな駅前は持続しないのです。京急の各駅で早朝に市政報告や街頭遊説をするときもタバコの吸殻を片付けてからでなければ落ちついて始められません。

自転車や、タバコの吸殻の問題など、利用者がきちんとモラルを守り、お年寄り、障がい者、外国人や赤ちゃんを連れられたお母さん達にとっても清潔で気持ちの良い駅前をみなさんと一緒に作っていきましょう。

来年から、スーリア、金沢動物園、野毛山動物園の横浜市3つの動物園は「横浜市緑の協会」が指定管理者として運営することとなります。3つの動物園を一つの管理者が運営するにあたっては、それぞれの動物園の役割を明確にして、特徴ある動物園を創るべきです。特に金沢動物園はスーリアの影響もあり、ピーク時に較べると入園者も激減しています。

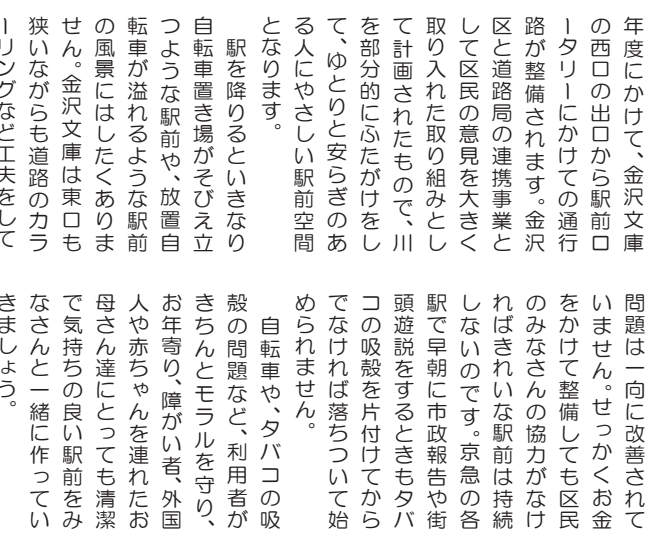
昨年から発表された構想では、動物園と植物園の枠を超えて、金沢自然公園(円海山)から上郷森の家なども含めて、動植物や昆虫観察・自然体験・環境学習などを通じて、五感をフル稼働して自然と分かり合える壮大な施設を目指すこととなります。

金沢動物園が生まれ変わります！

供たちにとって一生忘れない体験になりますし、命の大切さや自然のかけがえのなさを学ぶきっかけになることと思います。まだまだ構想の段階ですが、金沢動物園の「エゴ森プロジェクト」の今後に大いに期待しています。



八景島の水族館との連携も金沢だから出来る展開として検討するように提案しています。



www.masaru-k.net ホームページ・ブログも、ぜひご覧ください。 www.masaru-k.net
金沢区唯一の新人横浜市会議員、黒川まさるに対する期待・要望・激励メッセージなどをお寄せください。

氏名 _____ 連絡先 _____

ご連絡を頂いた方にはご返事させていただきます。(住所・メールアドレス・FAX番号・何でも結構です) 返信FAX 786-4310

「ともづな」 機関紙「ともづな」は、黒川まさるの政策広報紙です。「ともづな」とは港と舟とを繋ぐロープの結び方で、波が荒れば荒れるほど強く締まるという結び方です。時代の大きな変化の中で区民のみなさんと黒川まさるをしっかりと繋ぎ、横浜市政に対する姿勢・政策・実情などをレポートしてまいります。